

## 埼玉親善大使レポート

氏名：須鎗海羅

留学先：ミズーリ大学セントルイス校

### 埼玉県をPRした事柄について

私は埼玉県出身者として、留学先で埼玉の魅力を積極的に発信した。海外では日本といえど東京や京都が注目される一方、埼玉について知る人は多くない。だからこそ、留学という貴重な機会を活かし、自分の言葉で埼玉の文化や歴史、観光資源、スポーツの魅力を伝えたいと考えた。そこで私は、留学中に主に三つの活動を行った。

第一に、留学先の大学でラジオに出演した際に、埼玉についてPRした。特に、埼玉の歴史や川越などの街、地元である朝霞市の彩夏祭、個人的に好きな角川武蔵野ミュージアムや西武園ゆうえんちなども紹介した。ラジオはライブでキャンパス内に流れていたため多くの学生に知ってもらえたと感じている。

第二に、大学で週に一度行われていた日本語専攻などの集まりで埼玉を紹介した。そこに集まっている人たちは日本語を学んでいるのもあり埼玉についてとても興味を持ってくれた。また、その集まりにいた多くの学生が日本で留学を考えていたため、留学した際には埼玉を観光したいとも伝えてくれた。私も彼らがきた際には埼玉を紹介してあげたい。

最後に、留学中に所属していた格闘技ジムでのPRにも励んだ。彼らは、特にPRIDEやRIZINなどの大会に使われたさいたまスーパーアリーナを知っており興味を持って来ていた。私は、このような話題を通し、埼玉の格闘技産業だけでなく全体的なスポーツ産業についてPRした。

私自身、埼玉について調べPRしているうちに知らなかったことなどがとても多く自分自身も驚いたことが多かった。例えば、埼玉が全国で2番目にスポーツ施設が多いことなどには感嘆した。多くの人に埼玉を知ってもらえたことがとても嬉しく、日本に来た際には埼玉に足を運んでいただきたい。

### 現地での生活、風土、文化、歴史、国民性など

アメリカの中西部に位置するセントルイスはThe Gateway Archがあることで知られている。The Gateway Archは19世紀の米国西部開拓を記念してセントルイスに建てられた、高さ約192mのステンレス鋼製の巨大なアーチである。また野球も有名であり、WBCでも活躍したスーパースターが所属するカーディナルスという野球チームがある。

生活面に関しては、キャンパス内の寮に住んでおり、計400人近くが住む大きな学生寮だ。四人共同のバスルームがあり、部屋は個別にある。寮内にはプール、キッチン、ゲームルーム、コンビニや勉強部屋などが揃っており、とても快適な施設だ。食事に関しては、学校のミールプランを契約しており学校のカフェテリアや寮のコンビニなどで使える。しかし、大学でのカフェテリアのメニューはハンバーガーやピザ、チキンテンダーなどで私にはあまり合わなかった。

アメリカ人は思っていた以上に親切で優しくかった。そのため、たくさんの方が私に興味を持って話しかけてくれた。日本では人に話しかけるのに抵抗はあったが、アメリカではほとんどなく話せるのでとてもいい文化だと思う。またセントルイスで生活していて関心したことは、年齢関係なく友人として話せることだ。日本ではどうしても気を遣ってしまう

たりして一定の距離を感じるが、ここでは対等な関係なのでここでの人間関係のあり方はとても素敵だと感じた。

しかし、生活する中でのカルチャーショックも多々あった。特に宗教に関しては、理解に苦しんだことの一つだ。日本では、キリスト教をわかっていたつもりで何もわかっていなかったのだと気づいた。彼らの考え方や思想などを理解することに少し苦しんだ時期もあった。また、食べ物に関しても大きなカルチャーショックだった。毎日、同じような食事をしていたり、揚げ物を食べていることで疲れやすくなったりした。幸運にも、アジアンマーケットやレストランが多くあったので定期的に食べに行っていた。



### 自身の活動に関すること

私は、幼少期から格闘技を行っており将来プロの格闘家になることを目指している。そのため、アメリカの大学に通うとともに、学外の総合格闘技ジムに入門した。ジムには、アジア人がいなくすごく孤独に感じていたが、日々ジムに通い練習していく中でコーチやチームメイトとの絆は深まっていった。私は、元から英語が堪能ではなかったため、最初の方は何度も聞くなどして練習していた。

格闘技で成し遂げたことといえば、所属ジムのコーチからオファーをもらいセントルイスのプロ格闘技団体であるShamrock FCの大会にプロの前座として出場したことだ。セントルイスにある最大級のカジノ施設で行われた。その大会で日本人が出場したのは珍しく、自分としても気合いの入った試合だった。結果としては、僅差の判定負けだったが、試合後、何十人ものアメリカ人が「感激した」と「あなたが勝っていた」と伝えてくれ、写真撮影もお願いされた。このような経験は初めてであり、アメリカ人の熱狂、選手に対してのリスペクトに感激を受けた。

また留学終盤になった頃、ジムのコーチが私のためにお別れ会を開いてくれた。ここで得られたことは格闘技の技術だけではなく、かけがえのないチームとコーチ、またいつでも戻ってこられる場所だった。

帰国後は埼玉のスポーツ産業に携わりたいと考えている。留学中にスポーツが人々をつなぎ、地域を盛り上げる力を持つことを実感した。将来は、スポーツイベントの運営や地域スポーツの振興に携わり、埼玉の魅力を国内外へ発信するとともに、地域活性化に貢献したい。

## 最後に

留学で得たものは、語学力や異文化理解、友人、スキルだけではなく多角的に物事を見られるようになった視点だと思う。アメリカの良さを知ると同時に、日本のよくないところが見えていき、アメリカのよくないところが見えると同時に日本の良さをしれた。常識であったことを疑うようになり、物事の考え方の幅や選択肢が広がった。これらの考え方をこの先将来でも活かしていきたい。

